NIE実践報告

1．タイトル：新聞を使った学び

2．学校名

大阪府高槻市立津之江小学校

3．実践者名（代表者名）

鎌刈千絵・浅井康男

4．学年

第4学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　70人

6．単元（本時の学習課題）名

「四こままんが作文を書こう」

7．目標(狙い)

書こうとすることの中心を明確にし、段落と段落との続き方に注意して書く。

8．評価の視点

段落相互の関係を考えて、作文を書くことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「文と文のつながり」（教科書教材：光村図書）2時間「四こままんが作文を書こう」2時間　計4時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①文と文とをつなぐ接続語の役割を知る。（1時間）
②文と文の意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使って文を作る。（1時間）
③新聞の四こままんがなどを使って、四こままんが作文を書く。（2時間）

（留意点）
・題材は新聞の四こままんがなどを使う。
・各こまに対応させて、接続詞を与える。「そこで、ところが、なぜなら」

11．児童・生徒の反応、感想・意見

児童全員が、楽しんで生き生きと活動していた。四こままんがを用いたことで、児童の興味を引きやすかった。

12．成果と課題

文と文の意味をつなげる接続詞の使い方が分かり、それを生かして作文を書くことができた。また、接続詞に従って書くことにより、四こままんがの起承転結の構成も学ぶことができた。ただ、選ぶ作品により作文にしにくいものもあるので、選ぶ際に配慮が必要である。今後も継続して行うことにより、児童の書く力を育てていきたい。